

民俗建築アーカイブ ①

温井ダムに消えた村 —加計町温井— (その1)

日本民俗建築学会アーカイブ担当

温井ダムは広島県山県郡加計町に平成13年に完成したアーチ式ダムである。加計町は平成16年に町村合併により安芸太田町に変わった。

ダムの高さ(堤高)は156mで、西日本では一番高い。全国でも富山県の黒部ダム(186m)に次いで二番目の高さのダムである。

太田川の水流系は中国山地に源を發し、三段峡などの景勝地を形成しながら東に流れ、加計町に至る。ここで北から流れる滝山川と合流し、さらに東から来る宇川とも合流する。太田川はさらに幾つかの支流を集めて大河となり広島に至る。穏やかな時は豊かな自然環境を造り、アユを育て、都市の水道水となって、流域の人々に限りない恵みを与える。しかし、一旦怒りを發すると洪水を起こし人々に甚大な被害を与えてきた。特に加計町と広島の被害が大きかった。この氾濫を防ぐのは長年の願いであった。このため昭和52年から滝山川の中流に多目的ダム建設が着手された。これが温井ダムである。

ダム建設は流域の住民の居住地を奪う。このダムで影響を受けたのは温井地区で、水没13戸、非水没14戸、合計27戸の家が先祖代々の故郷を失った。新しく建設された「新温井団地」に移転を余儀なくされたのである。平成元年(1989)より住宅の移転が開始された。

昭和54年7月から水没地区の一筆調査が開始されたあと、佐藤重夫氏は昭和56年～58年の三か年にわたって温井地区の家屋調査に入っている。『民俗建築』214号、215号の2回に分けて掲載する写真はそのとき撮影したもので、現在は全て滅失している。昭和50年代の温井地区の民家を記録に残す貴重な写真である。

現在、旧温井地区は「籠姫湖」と命名されたダム湖の底に静かに眠り、周辺は緑と湖が作る健康的な観光地として賑わっている。

調査年月日と家屋名

第一回調査・撮影 昭和56年10月8日～9日

第二回調査・撮影 昭和57年9月20日～21日

第三回調査・撮影 昭和58年2月6日

温井地区の住民は、佐々木家(記号SS、以下同様)、斉藤家(ST)、向原家(MH)、栗栖家(KS)の4姓が先祖代々の住人で全体の92%を占める。他の姓は河野家(KN)、森脇家(MW)の2軒であるが、これは新しく転入した家と思われる。

調査の民家は全部で27軒、温井河内神社一宇である。写真は六六判のカラーで、集落景観、家屋の外観、室内写真など全部で134枚である。